

コンプライアンス

ニチレイグループは、企業経営理念のなかで「ニチレイは行動規範に反してまで得た業績は一切評価しません」と宣言し、社員の法令・定款遵守を促し、不正や反社会的な企業行動を排した経営に努めています。

また、取締役会の直轄組織としてグループの企業倫理・行動規範、取締役の賞罰などに関する検討・答申を行う「倫理委員会」を設置し、企業経営理念の実現に取り組んでいます。

法令遵守と企業倫理の強化・徹底

ニチレイグループでは、1999年に「行動規範」と「行動規範事例集」を作成・配布し、全従業員が法令・定款を遵守し、企業倫理に即して行動するための具体的対策や指針を明示しています。さらに、2004年度は、コンプライアンス経営の理念および体制のさらなる浸透を図る



行動規範事例集

ため、一般社員を対象としたコンプライアンス研修を従来の12回から20回へと拡大・実施したほか、代表取締役会長による「コンプライアンス巡回」を行い、全国で法令遵守の強化・徹底に向けた説明会を開催しました(延べ24回、参加者941名)。



コンプライアンス巡回

こうした活動の結果、2004年度中の法令違反はありませんでした。今後も引き続き「行動規範事例集」の見直しと徹底を通じて、コンプライアンス経営の確立に努めていきます。

ニチレイグループの行動規範

- 法令および社内規定・ルールの遵守
- 会社財産の有効活用と公私混同の禁止
- 社会貢献に関する行動
- 事業活動に関する基本的な姿勢
- 個人の立場と社員の対場の利害調整
- 社内および関係会社との交際

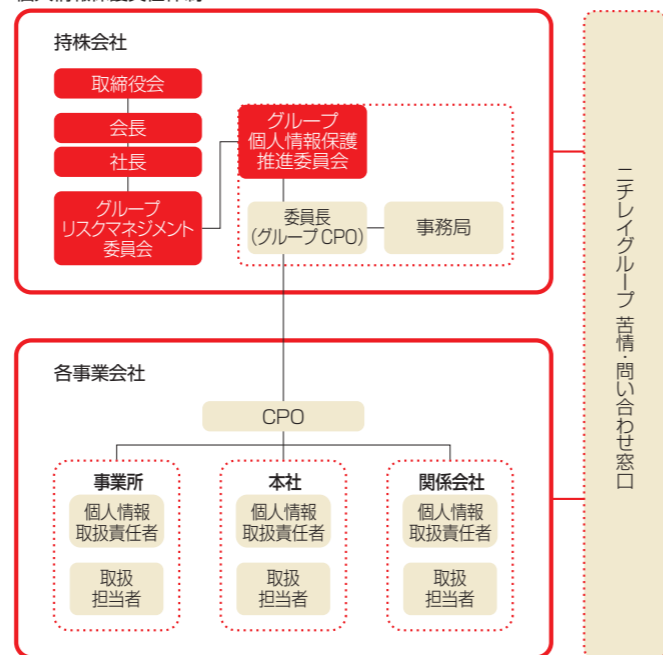
個人情報保護の体制整備

2005年4月1日に全面施行された「個人情報保護法」に先駆けて、ニチレイグループは2004年8月に「個人情報保護推進プロジェクト」を発足し、「ニチレイグループ個人情報保護基本規程」の作成、個人情報保護に関わる苦情・問い合わせ窓口の設置など、個人情報保護法の遵守に向けた体制を整備しました。

また、2005年1月には代表取締役社長を委員長とするグループリスクマネジメント委員会のなかに、「グループ個人情報保護推進委員会」を常設附属委員会として設置しました。

この委員会では、各事業会社(本社、事業所、関係会社)に配置したCPO(チーフプライバシーオフィサー)および個人情報取扱責任者を通して、個人情報の利用承認・安全管理措置を徹底し、グループ全体の個人情報を一元的に保護・管理しています。

個人情報保護責任体制



リスクマネジメント

リスクマネジメントは安定した事業活動に欠かせない施策です。

ニチレイグループは、グループ全体の事故および事件に類するリスクに備え、リスクの未然防止施策案並びに発生時対応・収束時対応を迅速に検討・調整・決定する機関として、2001年3月、代表取締役社長を委員長とする「グループリスクマネジメント委員会」を設置しています。

内部通報制度の浸透促進

リスク情報の収集機能を強化するために、2003年10月に内部通報制度「ニチレイホットライン」を発足しました。

これは、違法行為や社内規程などに違反する行為、企業倫理上問題のある行為、またセクシャル・ハラスメントなどについて、従業員からの通報・相談に応じる制度です。また、情報提供者の匿名性を確保するために、第三者機関を活用しています。

この制度を効果的に運用するため、2004年度はコンプライアンス研修において改めて制度の紹介をするなど、従業員への周知を図りました。

地震対策マニュアルの策定

阪神大震災以来、地震災害のリスクマネジメントが企業の経営課題としてクローズアップされるなか、ニチレイでは従来からの食料などの備蓄に加えて、2004年度はリスクマネジメント委員会事務局を中心に、首都圏直下型地震に備え、本社機能が停止した際の代替設置場所、非常通信手段などを検討しました。

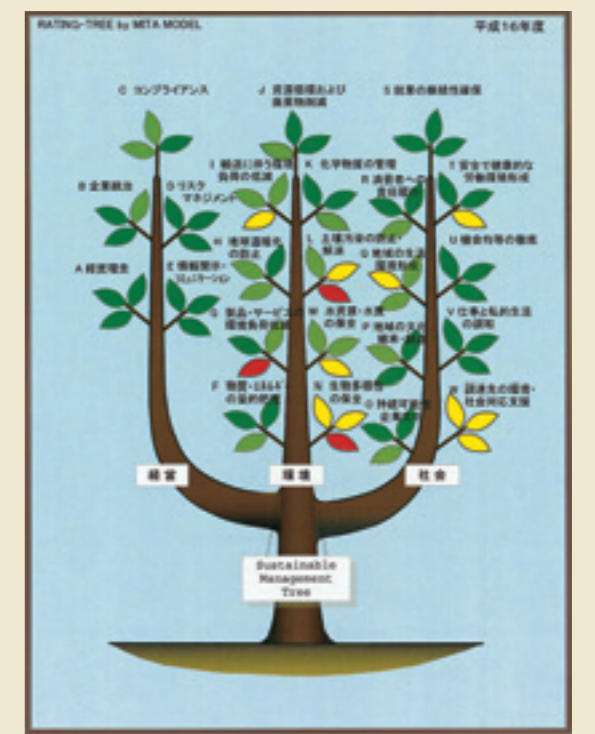
今後は、ニチレイグループ全体および各事業所で地震災害対策マニュアルを策定し、食料などの備蓄、教育訓練の検討を進める予定です。

環境経営(サステナブルマネジメント)格付け評価を受けて

2004年、ニチレイグループはNPO法人環境経営格付機構による「環境経営格付評価」を受けました。これは、企業の環境経営への取り組みを総合的に評価する格付調査で、「経営」「環境」「社会」の3カテゴリー・23項目の調査項目に対し、「戦略」「仕組」「成果」の3つの評価視点で構成されています。

2004年度の調査結果では、コーポレートガバナンスの充実を図っている点(経営)、農薬トレーサバックシステムの仕組みづくりの点(環境)などの評価は向上したものの、環境配慮商品の実効性(環境)、物流の効率化(環境)などは、定量データの不足により低い評価となりました。

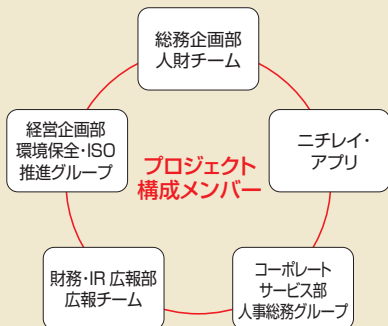
ニチレイグループは、こうした外部機関による格付調査の結果を真摯に受け止め、今後の改善に役立てていきます。



CSR への取り組み

「CSRプロジェクト」を発足

企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)が厳しく問われる時代を迎えるなか、ニチレイグループは、2004年度を「CSR元年」と位置づけ、2004年6月に「CSRプロジェクト」を発足しました。このプロジェクトは総務企画部、財務・IR広報部、経営企画部などの社内各部署の代表者並びに社外の専門家で構成されており、ニチレイらしいCSR経営のあり方を検討するとともに、CSR経営を実現するためのさまざまな仕組みづくりに取り組んでいます。



CSRの課題抽出と対策の検討

CSRプロジェクトでは、「CSR推進による従業員の意識変革」、「ステークホルダーに対する行動改善」、「ステークホルダーからの信頼獲得」を目的に、ステークホルダーごとの課題抽出や現状分析などに取り組んできました。その結果を踏まえて、2005年6月、ニチレイグループ「6つの責任」を明確化するとともに、6つの課題と具体的な取り組みを定めました。また、2005年度は代表取締役社長を統括責任者とする

「CSR委員会」を設置し、CSR活動の定着と強化を図っていくことを計画しています。

プロジェクトの検討内容

- CSR概念の理解
- ニチレイの活動棚卸し
- ステークホルダー分析
- ディスクローズのあり方について
- ニチレイらしさについて



ニチレイグループ「6つの責任」

6つの責任	6つの課題	具体的取り組み
1. 新たな顧客価値の創造	1. サプライチェーンマネジメント	事業戦略の推進 安全・安心のさらなる徹底 サプライチェーンマネジメントの着手
2. 働きがいの向上	2. グループ人事方針	ワークライフバランスの実現(仕事と生活の両立) ダイバーシティの推進(障害者雇用、高齢法対応)
3. コンプライアンスの徹底	3. CSR推進体制の構築	CSRの視点による行動規範の改訂とその浸透 情報セキュリティ対策の強化(個人情報保護を含む)
4. コーポレートガバナンスの確立		組織移行後の権限委譲と統治機構の明確化 内部監査機能の強化
5. 環境への配慮	4. 自然保護の推進	ゼロエミッションへの取り組み
6. ニチレイらしい社会貢献の推進	5. 社会貢献の戦略化	「食・健康・運動」をキーワードとした貢献活動の推進 ニチレイふれあい財団(仮)の設立
	6. コミュニケーション活動の推進	ステークホルダーとのコミュニケーションの強化